

とにかく褒めたらいいんだよ



作家の小林正観さんの話の中に、ちょっと衝撃的な話があった。ウッソーと思いたいのだが、確かに実生活の中に当てはまるフシが多々あるので、大方間違っていないと思う。

数学は得意ではないので正確に伝えられるか分からないけれど、誰しも「偏差値」という数学用語を聞いたことがあるだろう。「あの高校に行くには偏差値が少し足りない」みたいに、集団の中で自分がどの位置にいるかを測る数値だ。

たとえば、「中学3年生」を母集団とすると、その中の約85%は平均的な学力を持っていて、残りの15%は、あくまでも数字の上だが、極端に頭がいいか、全く学校の勉強についていけない生徒たちだ（この場合、知的障害児は含まれず）

ところが、一般的に偏差値には男女の区別は入っていない。もしここに男女の区別を埋め込むとどうなるか。何と女子は平均学力の85%の中にほとんど入ってしまうそうだ。つまり、女性は平均的にみんな優秀なのである。

そして、極端に低い25から35、あるいは極端に高い70から75に入るわずかな数%の人たちはほとんどが男子だ。

つまり、極端に勉強嫌いな怠け者も、極端に天才的な能力を発揮するのも、そのほとんどが「男」というわけである。

で、問題なのは、そういう男の子は生まれた時から勉強嫌いな怠け者と、極端な天才に分かれるわけではなく、たった一つの外的な条件によつて怠け者になったりものすごい天才になったりするというのだ。

「外的な条件とは何か。それは一番身近な女性の称賛です。」と正観さんは言う。一番身近な女性とは、多くの場合、母親。母親がいない場合は祖母だったり、育ての親だったり。

称賛をシャワーのように浴びた男の子はものすごく優秀な男になり、「バカだ」「アホだ」「どうしてそういうくだらないことをしているの」と言い続けているとどうしようもない男になっていく。その両面を男の子は持っているそうだ。

つまり、「すごい男」を育てるのは「称賛」であり、決して「正論」ではない。たとえば、「なんでお風呂に行く時、着ているものをバラバラに脱ぎ散らかすの？一箇所にまとめて脱ぎなさい」と正論を何十回言っても直らない。

こういうときは、「あなたのその脱ぎ方って個性的ね。でも、脱いだ服の高さは高いほうがカッコイイから、まとめて脱いで重ねたほうがステキよ」そうやって褒めていくと、男の子はバカみたいに利口になる。

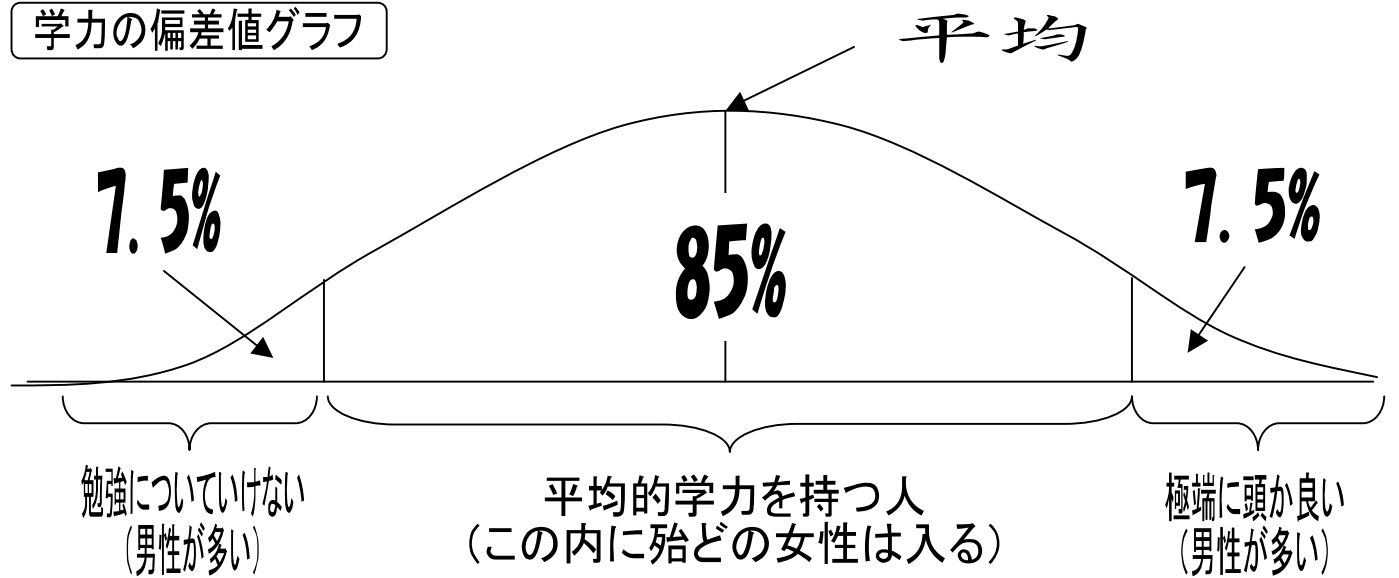
女性は、「私は正しいことを言っているので絶対分かってくれるはず」と思い込んでいるが、残念ながら男は正論を言われても変わらない。褒められたときしか心は動かないのだ。このことを知らないためどれほど多くの女性が苦しんでいることか。

国会議員の多くが東大卒。極端に偏差値の高かったあの方々は、「ヨイショ」すればするほど大物になっていく人たちで、テレビ討論を見て思うけど、正論で闘ってもお互いに聞いていないのも、これで納得できた。

それはそうと、やはり「褒められる」というのは男女を問わず、成長と幸福と生きる力の源だ。子供を、夫を、妻を、部下をおおいに褒めましょう。



学力の偏差値グラフ



不思議だけど～なんとなく納得します。

たとえば「料理」ひとつ考えても、ほとんどの女性は、きちんと出来て逆に、ほとんどの男性は出来ないのだが・・・「天才料理家」となると男性の方が多いような気がします。

私も妻と一緒になつて25年「くすりのキュート」を開店して21年になりますが、昔は何につけても心配性で、自信が無かったと思うのですが、当時～まだ若く可愛かった妻(笑)から、毎日のように・・・

「あなた～天才！！」 「あなたはスゴイ！」

と褒めまくられて、何となくその気になっていったように正直思います。

でも10年ほど前から逆に・・・

「今まであんたを褒めすぎて、調子に乗らせてしまった」
「もう～褒めるのはやめる」

とか言われ始め、実際、段々褒められるどころか叱られる方が多くなってきました！！・・・トホホ・・・

でも妻から褒められる事が少なくなってきたので・・・

「誰かに～褒められたい」

との一心から、いろんな仕事や勉強が頑張れたような気もします！！
所詮～賢い女性(妻)の計画・作戦どうりに単純な私が育てられたということかも・・・トホホ

P.S.

とにかく女性は、男性を褒める事！そして男性は褒められたら調子に乗って頑張れという事・・・！！

